

発刊にあたって

神奈川県自然環境保全センターは、企画から事業実施、普及啓発、研究の部門を備えた森林等の自然環境管理の中核機関として平成12年度に創設され、丹沢大山地域の自然再生をはじめ、県西部を中心とした山地森林を対象に森林環境の保全・再生に取り組んでおります。また、これらの業務をNPO等の団体やボランティアの方、企業、研究機関等の外部の方々との連携協力により推進していることも当センターの特徴です。

「自然環境保全センター報告」は、日々の業務から得られた様々な専門的知見や調査・研究成果を県民や他の関係機関等に情報提供するとともに、記録・保存することを目的に作成しております。

特に近年は、丹沢大山地域を中心にニホンジカが多く生息し、生物多様性のみならず水源環境への影響も大きくなっていることから、ニホンジカの保護管理対策と従来から実施している森林管理とを一体的に取り組み、水源地域の森林の水源かん養機能の保全・回復を図っていくことが課題のひとつとなっています。

そこで、今回発行する第13号では、ニホンジカの生息や捕獲に関する基礎的な知見や地域ごとの森林の水源かん養機能の基礎的知見、また、自然環境の長期的な推移を把握していく上での有用な知見や情報を掲載しております。

当センターでは、今後とも森林等自然環境の保全・再生に関わる業務や研究内容の充実に努めるとともに、成果や業績につきましては、本報告以外にもホームページなどで紹介しておりますので、業務等の参考としてご活用いただければ幸いです。

平成27年7月

神奈川県自然環境保全センター所長 稲垣 敏明